作成日：2025 年 1 月 21 日（第 6 版）

人を対象とする医学系研究に関する情報公開

福島県立医科大学健康リスクコミュニケーション学講座では、本学倫理委員会の承認を得て、下記の人を対象とする医学系研究を実施します。関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

2018 年 6 月　　福島県立医科大学健康リスクコミュニケーション学講座　田巻 倫明

【研究課題名】

福島原発事故後の放射線リスク認知と精神健康との関係
－マインドフルネスによる緩衝効果の検証－

【研究期間】

2018 年 6 月（承認後）～2027 年 3 月

【研究の意義・目的】

今般の東日本大震災に伴う原子力発電所事故により、福島県浜通り地区をはじめとした広範な地域に放射性物質が拡散しました。福島県による平成 27 年度の調査報告によると、放射線被ばくの次世代への健康影響が高いと回答した方が 37.6%の値を示しています。平成 23 年度調査報告と比較すると低下してきてはいるものの、未だに高い数値にとどまっているといえます。さらに、放射線の健康影響が高い確率で生じると考える（すなわち放射線への不安が強い）方ほど、精神的健康度が低いことが示されました。これらの知見から、放射線不安が精神的健康に及ぼす関係を明らかにし、その対策を講じることは重要なことといえます。

そのような精神的健康への対処方法のひとつとして、臨床心理学において近年、マインドフルネスが注目されています。マインドフルネスは、「この瞬間に、意図的に、価値判断をせずに特別な注意を払うこと」と定義され、その技法には、自然に生じる呼吸や腹部に能動的な注意を向ける呼吸法、体の各部の感覚に注意を集中するボディスキャン等があります。マインドフルネスは心の状態としての個人差をマインドフルネス傾向として質問紙によって測定されています。実際、マインドフルネス傾向の高い者は、うつや不安等の精神症状が少ないこと、知覚されるストレスが低く、感情統制が促進される等の関連が示されています。放射線への心配は妥当な心の反応といえますが、それによる精神的な健康の低下は予防すべきであると考えます。マインドフルネスは放射線不安による精神的健康の悪化を予防する効果を持つ可能性が推察されますが、その関連を実証した研究はまだありません。

よって本研究は、放射線不安と精神的健康との関連について、個人のマインドフルネス傾向がどのような影響を及ぼすかについて明らかにすることを目的とします。また、放射線不安が精神的健康を悪化させる要因として、病気や健康問題に関して過度に心配する傾向である健康不安が関与していると想定されることから、同時にその関連についても検証します。マインドフルネスは集団実施が可能であること、個人で実践可能なものであることから、被災後のメンタルヘルス対策において有用な知見を提供することができると考えます。

【研究の対象となる方】

対象地域は、福島県と東京都を対象とし、調査手法にオンラインアンケート（インターネット調査）を採用します。対象者は、オンラインアンケートを実施する調査会社に住所を福島県、あるいは東京都として登録している 20 代から 50 代までのモニターです。福島県と東京都をそれぞれグループに分類し対象者数は 1 グループあたり約 400 人とし、合計約 800 人です。事前に、調査会社に調査の実施可否と見積りを確認の上、人数を決定しています。

【研究の方法】

本研究は、福島県立医科大学において、アンケートの結果を用いてデータ解析を行い、結果の考察と議論を行います。

アンケート対象者は、オンラインアンケートを実施する調査会社に住所を福島県および東京都として登録している 20 代から 50 代までのモニターです。事前に、調査会社に調査の実施可否と見積りを確認の上、人数を決定しています。

調査で得られるデータは、幸福度、全般的な精神的健康度、健康不安感、放射線被ばくへの不安感や放射線被ばくリスクへの認識、放射線被ばくに関する知識と教育の有無、マインドフルネス、信頼できる情報源、年齢、性別、既往歴、転居回数、職業、配偶者、子ども・孫の有無、最終学歴、世帯人数、世帯年収、喫煙習慣、自由回答などです。アンケートは無記名であり、調査会社より匿名化された上で通し番号がつけられたデータが提供されます。

このアンケートにより、放射線リスク認知が精神的健康や幸福度に及ぼす影響に関連する要因について、マインドフルネス特性や健康不安の作用を定量的に明らかにすることができ、放射線災害後のメンタルヘルス対策のひとつとして方法論を提供できると考えられます。

【研究組織】

研究責任者：

（所属）福島県立医科大学健康リスクコミュニケーション学講座（職）教授

（氏名）田巻 倫明

学内分担研究者

健康リスクコミュニケーション学講座　講師　竹林　由武

健康リスクコミュニケーション学講座　博士研究員　柏﨑　佑哉

健康リスクコミュニケーション学講座　学部生（MD-PhD）　町田 夏希

健康リスクコミュニケーション学講座　博士研究員　村上道夫

【他の機関等への試料等の提供について】

なし。

【本研究に関する問い合わせ先】

本研究に関する御質問等がございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書及び研究の方法に関する資料を閲覧できます。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて研究対象者ご本人又は代理人の方に御了承いただけない場合には、研究対象者とはせずに試料・情報の利用、提供をいたしませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも研究対象者ご本人又は代理人の方に不利益が生じることはありません。なお、研究結果が既に医学雑誌への掲載や学会発表がなされている場合、データを取り消すことは困難な場合もあります。

〇研究内容に関する問い合わせの窓口

〒960-1295　福島県福島市光が丘１

公立大学法人福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座

担当　田巻 倫明

電話:024-527-1320　　FAX: 024-547-1244

E-mail:tamakit@fmu.ac.jp

〇試料・情報を当該研究に用いられることについて拒否する場合の連絡先

〒960-1295　福島県福島市光が丘１

公立大学法人福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座

担当　田巻 倫明

電話:024-527-1320　　FAX: 024-547-1244

E-mail:tamakit@fmu.ac.jp